

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092400015		
法人名	有限会社 平成		
事業所名	グループホーム 道		
所在地	長野県上伊那郡飯島町田切161-52		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=trueljgvsvoGd=2092400015-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市別府3307-5
訪問調査日	平成28年2月8日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様一人ひとりの機能やペースに沿った対応を心がけている。又利用者様一人ひとりの尊厳を尊重した言葉遣いに留意し、対応させていただいている。 ・地域やご家族との連携を大事と考え、玄関ではなくリビングに上がっていただき、お話をするようにしている。 ・花と花木で温かみのある、家庭的な生活環境作り力を入れている。 ・地域の行事などに参加し、生活できる居場所づくりに努めている。 ・笑顔で明るく暮らしていけるように支援している。 ・主治医と家族との円滑な連携をし、ターミナルケアを行っている。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>第1の理念に「利用者の皆様と共に暮らしを作り上げます」と掲げているように、利用者は何を望んで、何をしたいのかを職員と一緒に考えて、実践していることが素晴らしい。</p> <p>また、第2の理念に「地域の中で地域の皆様とくらしめます」と掲げているように、地域との関わりを大切に、利用者や職員は地域に出かけ、グループホームに地域の方を受け入れ、着実に歩んでいる。</p> <p>そして、第3の理念に「輪・和・話を大切にします」と掲げているように、地域との輪、利用者や職員との和、日々の会話を大切にされた様子を目の当たりにして素晴らしい。</p> <p>家族のように看取りを行っている職員の姿に、理念の実践をみることができる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(東)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

ユニット名(西)		取 り 組 み の 成 果		取 り 組 み の 成 果			
項 目		取 り 組 み の 成 果	項 目		取 り 組 み の 成 果		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 理念を施設内に掲示し職員の目に入るようにしている。 職員会で毎月確認し合う。 	毎月1回の東西ユニットの職員がそろって職員会では、声に出して理念を読み上げ、意識を高めて実践に繋げようとしている。毎日の料理や洗濯などを職員が利用者とできるかぎり一緒にして、家庭的な雰囲気作りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に参加している(文化祭、どんど焼き、蕎麦打ち) 花や野菜を届けてくださる。 天気を知らせてくださる(洗濯物が濡れる) 	以前から自治会に加入して川掃除や廃品回収を行ったり、また、施設長が商工会活動に参加したりして、地域の一員として溶け込んでいる。近隣の方から、庭に咲いている花や畑で育てている野菜をいただいたり、地域の文化祭やふれあい広場、どんど焼きやお花見に招待していただいたり、地域の方が蕎麦打ちして料理してくれたりして、ますます地域とのつきあいが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 青年海外協力隊の研修受け入れ。 中学生の職場体験受け入れ。 他施設の研修受け入れ。 ボランティアの受け入れ。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 会議に出された意見は職員に伝えサービスの向上に活かしている。 	地域の方々の協力を得て、年6回の運営推進会議を開くことができた。その内容も、グループホームの様子の紹介や情報交換だけではなく、夏祭りに参加してもらって充実したものとなった。運営推進会議の委員の協力を得て、集会所でのお花見もできた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 役場に出向き担当者と面談し施設の状況を報告し、助言を受けている。 	運営推進会議には町の高齢福祉係の係長の参加があり、連絡を密にできるようになっている。また、利用者の入所・退所等について、町役場や社会福祉協議会との連携をとり、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 玄関の施錠や行動の制限などはせず、自由な行動と自由な雰囲気作りを心がけている。 身体拘束のいろいろな場面を話し合い、やむを得ないような場合であっても、身体拘束をしないケアとは何かと考え、取り組むようにしている。 	東西ユニットでは、利用者の徘徊の事例はない。夜間落下の恐れのある利用者の安全のため家族の同意を得て、4本柵ベッドを使用する場合でも、カンファレンスのつどその解除に向けて話し合っている。	

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待とは？を理解するように職員会等で研修している。 ・言葉遣いや言葉のかけ方について常に考えるように努めている。 ・日常生活の中で気になった事を直ぐにリーダーに伝えるように徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、利用者様の権利が保障されるように支援している。(現在2名 後見人利用されている)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時の契約時に利用者ご本人やご家族の希望や不安、要望を言いやすい雰囲気の中で締結できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会を設置し、意見や提案を運営に反映している。 ・ご家族が訪問時にお聞きしている。	家族会をグループホームの夏祭りが行われる時期に1回開催している。職員の司会で、利用者の要望などを聞き、話し合っている。家族だけの話し合う機会を設けてきたが、話し合いが進まなかったので中断している。これまで利用者調査の結果を見て、工夫した対応をしてきている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会やミーティング又個々の話し合いで要望や意見を聞き、反映できるようにしている。	東西ユニット合同の職員会ではなかなか職員からの意見は出てこないが、東西ユニットに分かれてのカンファレンスでは居室担当の職員を中心に意見を述べる場面がある。また、引き継ぎ時のミーティングでは、施設修理の要望が多く出されている。施設長は職員個別の面談をして要望を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・ミーティングや個々の話し合いをし、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員個々のレベルを把握し、それに応じた研修を受講できるようにしている。 ・リーダーはその時その時に必要と感じた指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・上伊那圏域のグループホームの研修会に参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面接を行い、生活環境を理解しご本人やご家族から不安や要望をお聞きし、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との話し合い時に不安や要望希望をしっかりと聞き、話の全てを聞き入れる気持ちで話し合いをし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前面接を行いご本人ご家族が必要としている支援を把握し、職員に報告するとともに検討、受入れ準備を念入りに行いサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活を共に過ごす者同士の関係を認識し、人生の先輩として教えて頂くこと、注意していただいた事など受け止め、温かみのある生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・訪問時には、ご本人とご家族が絆を大切にしたい、写真を見ながらお話ができるよう配慮して、ご本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・これまでご本人が大切にしてきた人や場所との関係が継続するようゆっくりと話を聞き、又再び訪問していただけるような雰囲気作りに努めている。 ・ご家族に報告している。	東ユニットでは、兄弟・親戚の訪問が多い。西ユニットでは、友人・隣人の訪問がある。このような訪問時には、リビングや居室等でゆっくり話してもらうようにお茶を出して迎えている。また、これまでの利用者が築いてきた関係を大事にして、お正月・お盆の里帰りなどを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様同士のお話の場やレクリエーションや家事の手伝いなど、一緒にできる場や雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所されても年賀状や暑中見舞いのやりとりをして、気軽に立ち寄っていただけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・生活歴や情報提供書をもとにご本人の希望や意向、ご家族の希望や不安を伺い、利用者本位で考える努力をしている。	センター方式を使っていないが、利用者一人ひとりの情報提供書をもとに、家族から聞き取った生活歴などをアセスメントシートに記録している。また、毎日の個別の「生活日誌」には、赤字で家族との関わり、青字で医療での留意点と区別して記入し、職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前面接時やケアマネからの情報提供書を参考に、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活の中で個人の有する能力、一日の過ごし方など現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・一か月に一回(基本的に)のカンファレンスで問題課題を出し合い検討し、介護計画に反映している。 ・ご家族や関係者に事前に意見を聞くようにしている。	利用者一人ひとりの「生活日誌」には、1ページ目に介護計画を入れ、「ケアプラン実施状況及び評価」で日々の実施状況や評価をチェックし、記録するように工夫している。また、1か月ごとにカンファレンスで介護計画について話し合い、見直している。介護計画を作成する場合には、事前の家族や医師などの意見を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子を個別に記録し、職員間で情報の共有をし、その都度話し合いご家族にも報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様とご家族の状況や意向に合わせ、病院の付き添いや送迎をしている。		

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・十分に地域資源を把握しきれていないところもあると思うが、地域の方々にボランティアの協力を得て支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医との関係を築き、ご本人ご家族の意向を第一に考え、納得を得て施設内外で受診できるように支援している。	東ユニットでは、9人の利用者がかかりつけ医が同一で、随時受診したり、月2回の往診を受けたりしている。また、4人の利用者が精神科医にかかり、3人の利用者がリハビリを受けている。このように、利用者や家族の意向を大切に医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・気になった利用者様、体調異変の利用者様について看護師に指示を受け、主治医との連携のもと適切な受診や対応が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・こまめにお見舞いに行き、ご本人が少しでも安心できる時間を作るようにしている。 ・地域医療連絡室と連携をとり、退院時また退院後の話し合いもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時にご本人ご家族の希望を聞き、職員間で情報の共有をしている。 ・ご家族が主治医と話し合いを持ち、意向を決め、連携を取りながら終末期に向け取り組んでいる。 ・体調に変化のあった時は、再度今後のあり方について意見を聞いている。	ターミナルケアに取り組んでいる。この1年間、東ユニットでは1人の利用者の看取りを行った。家族の思いを大事にして延命治療などにも取り組み、居間や事務室に泊まってもらい、職員は全員で見送り、できる限り葬儀にも参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応は職員間で確認し、看護師から基礎的な指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災避難訓練を全ての利用者様と職員で行っている。 ・運営推進会議にて協力を依頼している。 ・地域の方にも協力を仰ぎ、参加していただいている。 ・2回のうち1回は、実際に則した訓練を行っている。	10月に全職員が参加し、家族や近隣の方の協力を得て、広い駐車場への避難する防災避難訓練を実施した。また、3月には夜間を想定とした防災避難訓練を実施する予定である。年2回の消防点検の他に、2か月に1回の備品点検を行っている。今後、近くの断層についての対策も考えていく予定である。	地域の実態を踏まえた防災対策を考えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの尊厳について、職員会や朝のミーティングの折に話し合い、適切な言葉遣いや対応について考えている。	利用者の尊厳を大切に、「一緒にしましょう」「～していいですか」と言うような、丁寧で、優しい言葉遣いに留意している。また、「どのような利用者になってもらいたいか」という点から、利用者が自己決定する事を大事にした対応、言葉遣いにも心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己選択決定はその方の人権を守る一歩だと捉え、自分で決定していただける言葉かけに心がけている。 ・ご本人の希望の表出を大切に実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご本人のペースやリズムで生活できるように利用者本位の考え方で対応している。 ・一人ひとりの状態の変化に気づき、希望や要望の把握に努めようとしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人手持ちの衣類を季節ごとに入れ替え、ご本人と相談しながらオシャレの要望を入れるようにしている。 ・美容院に依頼もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・何を食べたいか相談し、作り方を話し合い、できることをしていただいている。 ・季節の物を使い、季節感を大切にしている。	重度化が進み、東ユニットではミキサー食の利用者が3人いて、職員の介助を受けながら食事をしてきた。そんな中でも、施設の畑で育てた野菜や漬物を食べたり、好みのコーヒーやココアを楽しんだりしている。また、利用者の希望を聞いて、献立を工夫し、できる仕事を一緒にして、利用者の力を発揮できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事には3食汁物を付け、午前午後のお茶には、好きな飲み物を飲んでいただくように準備している。 ・摂取量により、代替品を準備し声かけも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後洗面所にて 口腔ケア、入れ歯洗浄を行っている。 ・口腔内の異常時は、往診依頼又は受診している。		

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄が基本であると認識し、個人個人の間隔を把握し、声かけ誘導している。	それぞれのユニットに、車椅子対応のトイレが3カ所、その他のトイレが1カ所あり、余裕を持って対応できるようになっている。重度化が進み、オムツやパット対応の利用者が多くなっているが、排泄チェック表を使用して、適切な誘導・介助ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事は野菜を多くし3食汁物を付けている。 ・水分摂取を工夫し、好きな物を飲んでいただくようにしている。 ・一人ひとりの好きな飲み物を把握し、出すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一人ひとりの体調や希望に合わせて、ゆっくりと入っていただくように支援している。	週2・3回を基本に、したくない利用者もできる限り入浴できるように支援している。洗濯・脱衣室や浴室は広くとっており、東西ユニットにはリフト浴がまだ設置されていないので、重度化した利用者にも対応できるように設置を予定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・就寝は個々のペースに合わせている。 ・眠れない時は、お茶を飲みながらゆっくりと時間を過ごすように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの薬の処方をよく理解し、副作用についても学んでいる。 ・薬は飲み忘れのないように手渡しにて、飲み込みを確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの嗜好品を把握し支援している。 ・一人ひとりの力を活かし、やっていただくことはやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・その日の気候や四季折々に出かけられるように支援している。 ・お花見や紅葉狩り、地域の文化祭などにも出かけている。 ・外食にも出かけている。	外出が少なくなってくる冬場でも、廊下散歩や簡単な体操、ボール投げなどで体を動かしたり、歌やゲームやカルタ取りなどで楽しんだりしている。また、車椅子対応の車で、薬局に行ったり、買い物に行ったりしてドライブを楽しんでいる。そして、お花見や紅葉狩り、地域の文化祭などの特別な外出も、随時行っている。	

グループホーム 道・東

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金は預かっていないし、ご本人も持っていない。必要な時はご家族に連絡を取りその都度いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人が電話をかけたいと言えば、使用していただいている。又ご家族から電話があればご本人と話ができるように支援している。 ・携帯電話を使用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間は掃除が行き届き、植物があり、生活感や季節感があり、気持ちよく過ごせる。 ・暖かさ寒さに対しては、冷暖房や床暖を使い、快適に過ごせるように心がけている。	東西ユニットごとに分けられた広い玄関や、広い廊下には季節の草花が活けてあり、訪れた家族を迎えてくれ、その先の広いリビングや居間には利用者の様子を撮った大きな写真や利用者の作品などが飾ってあり、また迎えてくれる。この共用空間は訪れた者にあるだけでなく、ゆったりと生活する利用者や職員のためにあると、実感できる。利用者はここで一日の大半を心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルや椅子の他にソファがあり、一人になれる場所を用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時にご本人が使い慣れたベットやタンスなどを持って来ていただいている。 ・ご本人と相談し部屋の配置を決めている。	日中はリビングや居間で過ごすことが多く、就寝する時に居室で過ごす利用者が多いが、居室には家族の写真や花を飾ってあったりして、居心地がよい空間になっている。また、きれいに掃除がしてあり、花の水替えなどもしてあり、細部にいたるまでの職員の支援がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、個室、トイレ、浴槽には安全のための手すりを設置してある。トイレと洗面所は居室の近くにあり、自分でできることはできるように工夫している。		

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所独自の理念をり作り上げている。 ・施設内に提示し、職員がいつでも目に入るようにしている。 	毎月1回の東西ユニットの職員がそろって職員会では、声に出して理念を読み上げ、意識を高めて実践に繋げようとしている。毎日の料理や洗濯などを職員が利用者とできるかぎり一緒にして、家庭的な雰囲気作りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加させていただく。 ・花や野菜を届けていただいている。 ・近所の方々との挨拶をし、会話することを心がけている。 ・地域の資源回収の協力。 	以前から自治会に加入して川掃除や廃品回収を行ったり、また、施設長が商工会活動に参加したりして、地域の一員として溶け込んでいる。近隣の方から、庭に咲いている花や畑で育てている野菜をいただいたり、地域の文化祭やふれあい広場、どんど焼きやお花見に招待していただいたり、地域の方が蕎麦打ちして料理してくれたりして、ますます地域とのつきあいが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊の研修生の受け入れ。 ・ボランティアの受け入れ。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・会議での意見は職員に伝え、サービスの向上に努めている。 ・本年は6回実施できそう。 	地域の方々の協力を得て、年6回の運営推進会議を開くことができた。その内容も、グループホームの様子の紹介や情報交換だけではなく、夏祭りに参加してもらって充実したものとなった。運営推進会議の委員の協力を得て、集会所でのお花見もできた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・町役場や社協へ出向き、施設内の実情をお伝えし協力をお願いしている。 	運営推進会議には町の高齢福祉係の係長の参加があり、連絡を密にできるようになっている。また、利用者の入所・退所等について、町役場や社会福祉協議会との連携をとり、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関の施錠や行動の制限などはせず、自由な行動と自由な雰囲気作りが心にかけている。 ・身体拘束のいろいろな場面を話し合い、やむを得ない場合であっても、身体拘束をしないケアとは何かと考え、取り組むようになっている。 	東西ユニットでは、利用者の徘徊の事例はないが、夜間落下の恐れのある利用者の安全のため家族の同意を得て、4本柵ベッドを使用する場合でも、カンファレンスのつどその解除に向けて話し合っている。	

グループホーム 道・西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言葉遣いや言葉のかけ方について再確認し、職員会において話し合う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員会を通じて報告し確認しあう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所後や契約時に説明し、ご本人の希望、ご家族の要望や不安をお聞きする中で、納得のしたサービスの提供となるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会や面会時等に意見や要望をお聞きし、運営に反映させていけるように努めている。	家族会をグループホームの夏祭りが行われる時期に1回開催している。職員の司会で、利用者の要望などを聞き、話し合っている。家族だけの話し合う機会を設けてきたが、話し合いが進まなかったので中断している。これまで利用者調査の結果を見て、工夫した対応をしてきている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会やミーティングなどで意見を出してもらい、反映させていけるように努めている。	東西ユニット合同の職員会ではなかなか職員からの意見は出てこないが、東西ユニットに分かれてのカンファレンスでは居室担当の職員を中心に意見を述べる場面がある。また、引き継ぎ時のミーティングでは、施設修理の要望が多く出されている。施設長は職員個別の面談をして要望を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個々の話し合いで要望や意見を聞き、各自が向上心を持って働けるよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々のレベルを把握し、内外の研修を受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域、介護サービスネットワーク会議に出席し、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・日々の会話の中から聞きとめるように努めている。 ・面会時にご本人、ご家族の意見をお聞きし、ご本人が安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接時に不安や要望を傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・個々を尊重し、その人らしく生活できるようにサービスの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・情報交換や連絡を密にし、毎日の暮らしを支え合える関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時には、ご家族との時間を大切にすることを努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人や近所の方々の面会時には、ゆっくりとした時間が過ごせるように努めている。	東ユニットでは、兄弟・親戚の訪問が多い。西ユニットでは、友人・隣人の訪問がある。このような訪問時には、リビングや居室等でゆっくり話してもらうようお茶を出して迎えている。また、これまでの利用者が築いてきた関係を大事にして、お正月・お盆の里帰りなどを支援している。	
75					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりを尊重し、穏やかな日々が過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・年賀状や暑中見舞い等のやり取りをしている。 ・お寄りいただいた際には、お茶を飲みながらお話をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様の情報提供書を元に、ご本人やご家族の希望を聞き、介護計画を作成している。	センター方式を使っていないが、利用者一人ひとりの情報提供書をもとに、家族から聴き取った生活歴などをアセスメントシートに記録している。また、毎日の個別の「生活日誌」には、赤字で家族との関わり、青字で医療での留意点と区別して記入し、職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人やご家族からの情報を得て、職員一人ひとりが情報を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活歴の中から、その個人の有する力を把握するように努めている。 ・一人ひとりに目を配り、一日ごとの状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人やご家族の意見を聞きながら、現状を受け止めカンファレンスで話し合い、ご本人の希望やできる事、必要な支援を取り入れ、介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの「生活日誌」には、1ページ目に介護計画を入れ、「ケアプラン実施状況及び評価」で日々の実施状況や評価をチェックし、記録するように工夫している。また、1か月ごとにカンファレンスで介護計画について話し合い、見直している。介護計画を作成する場合には、事前の家族や医師などの意見を大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に応じた見直しを行っている。 ・変化が生じた場合には個別に記入し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様やご家族の希望、又はその時々状況に合わせて病院への付き添いや送迎を行っている。 ・歯科3名、眼科1名		

グループホーム 道・西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事など参加させていただき、暮らしを楽しむことができるように支援している。 ・ボランティアの方々の協力を得て、暮らしを楽しむように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医の月2回の往診、精神科医の往診。 ・歯科への通院の支援、訪問リハビリを受けていただく。	西ユニットでは、7人の利用者がかかりつけ医が同一で、2人の利用者は他のかかりつけ医となっているが、随時受診したり、月2回の往診を受けたりしている。また、4人の利用者が精神科医にかかり、2人の利用者がリハビリを受けている。このように、利用者や家族の意向を大切に医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調不良時には、医療機関への受診、医師との連携を密にして適切に対応できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院と同時に情報提供書の提出、退院前に医師、看護師ご家族と話し合いをしている。 ・病院で行われている地域連絡会議に出席し対応の確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ターミナルケアに関してはご本人ご家族の意思に添えるように医師とカンファレンスを行っている。 ・本年度 西ユニットでは2名の看取りをさせていただく。	ターミナルケアに取り組んでいる。この1年間、西ユニットでは2人の利用者の看取りを行った。家族の思いを大事にして延命治療などにも取り組み、居間や事務室に泊まってもらい、職員は全員で見送り、できる限り葬儀にも参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時のマニュアルは個別に分けている。 ・看護師より具体的な指導を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を利用者様と職員で行っている。 ・地域の協力を運営推進会議を通じてお願いしている。本年度3名の協力をいただいた。	10月に全職員が参加し、家族や近隣の方の協力を得て、広い駐車場への避難する防災避難訓練を実施した。また、3月には夜間を想定とした防災避難訓練を実施する予定である。年2回の消防点検の他に、2か月に1回の備品点検を行っている。今後、近くの断層についての対策も考えていく予定である。	地域の実態を踏まえた防災対策を考えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・守秘義務について職員会議で話し合いをしている。 ・言葉遣いは日常生活の中で気をつけている。毎日引き継ぎ事に確認する。 	利用者の尊厳を大切に、「一緒にしましょう」「～していいですか」と言うような、丁寧で、優しい言葉遣いに留意している。また、「どのような利用者になってもらいたいのか」という点から、利用者が自己決定する事を大事にした対応、言葉遣いにも心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の希望を大切に実現できるようにしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生活を大切に、その方に合ったペースで一日が過ごせるよう支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみやオシャレができるよう、季節にあった衣類の用意をしている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に準備や片付けをしていただいている。 ・誕生日には、皆さんでお祝いをして楽しむことのできるよう支援している。 	重度化が進み、西ユニットではミキサー食の利用者が1人、お粥食1人、食事制限1人と、職員の介助を受けながら食事をしてきた。そんな中でも、施設の畑で育てた野菜や漬物を食べたり、好みのコーヒーやココアを楽しんだりしている。また、利用者の希望を聞いて、献立を工夫し、できる仕事を一緒にして、利用者の力を発揮できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の状態や水分量に注意している。 ・医師と相談しながら食事制限の方には代替え食を用意している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入れ歯の方は夕食後洗浄剤を使用し、清潔を保っている。 ・できる方には見守りながら歯磨きをしていただいている。 		

グループホーム 道・西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレの介助、誘導を多くし、トイレでの排泄を心がけるようにしている。	それぞれのユニットに、車椅子対応のトイレが3カ所、その他のトイレが1カ所あり、余裕を持って対応できるようになっている。重度化が進み、オムツやパット対応の利用者が多くなっているが、排泄チェック表を使用して、適切な誘導・介助ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分(お茶コーヒー等)や果物を取り、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週2～3回は入浴できるようにしている。 ・入浴できない方には清拭を行ない、清潔に過ごしていただけるようにしている。	週2・3回を基本に、したくない利用者もできる限り入浴できるように支援している。洗濯・脱衣室や浴室は広くとっており、西ユニットにはリフト浴が設置され、重度化した利用者にも対応できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・冬季は居室を暖かくして、湯たんぽを使うなど気持ちよく眠れるようにしている。 ・寝具を清潔にし、気持ちよく休めるように努めている。(5～7日で寝具の交換)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の副作用や症状の変化を見落とさないよう努めている。 ・個々のお薬手帳を使い、職員が全員見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの嗜好品や代替品の提供をしている。 ・楽しみごとへの気分転換の支援。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・四季折々に合わせてた外出ができる機会を作っている(お花見、紅葉狩り、ドライブ) ・地域の行事に参加させていただいている。(町文化祭、地域文化祭、どんど焼き等)	外出が少なくなってくる冬場でも、廊下散歩や簡単な体操、ボール投げなどで体を動かしたり、歌やゲームやカルタ取りなどで楽しんだりしている。また、車椅子対応の車で、薬局に行ったり、買い物に行ったりしてドライブを楽しんでいる。そして、お花見や紅葉狩り、地域の文化祭などの特別な外出も、随時行っている。	

グループホーム 道・西

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要時ご家族と連絡をとっている。 ・1名小額だが本人管理。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族より電話があった時は、ご本人と会話できるように心がけている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地の良い空間作りをすることで、ご本人が気持ちよく生活できるように支援している。 	東西ユニットごとに分けられた広い玄関や、広い廊下には季節の草花が活けてあり、訪れた家族を迎えてくれ、その先の広いリビングや居間には利用者の様子を撮った大きな写真や利用者の作品などが飾ってあり、また迎えてくれる。この共用空間は訪れた者にあるだけでなく、ゆったりと生活する利用者や職員のためであると、実感できる。利用者はここで一日の大半を心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・和室やソファーを利用しながら居場所作りを工夫している。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時にご本人やご家族と相談しながら、居心地のよい生活ができるよう使い慣れたものを使っている。 ・居室に花や写真を貼って楽しんでいただく。 	日中はリビングや居間で過ごすことが多く、就寝する時に居室で過ごす利用者が多いが、居室には家族の写真や花を飾ってあったりして、居心地がよい空間になっている。また、きれいに掃除がしてあり、花の水替えなどもしてあり、細部にいたるまでの職員の支援がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・できる事やわかる事を活かして、ご本人のペースでやっていただいている。 ・個々の状態により安全に生活できるように工夫している。 		